

「いきものみつけ2017」調査対象種の概要

「いきものみつけ2017」では、近年、変化していると考えられるいきものの中から、以下の3つのカテゴリー毎にそれぞれ2種、計6種を調査対象種とします。

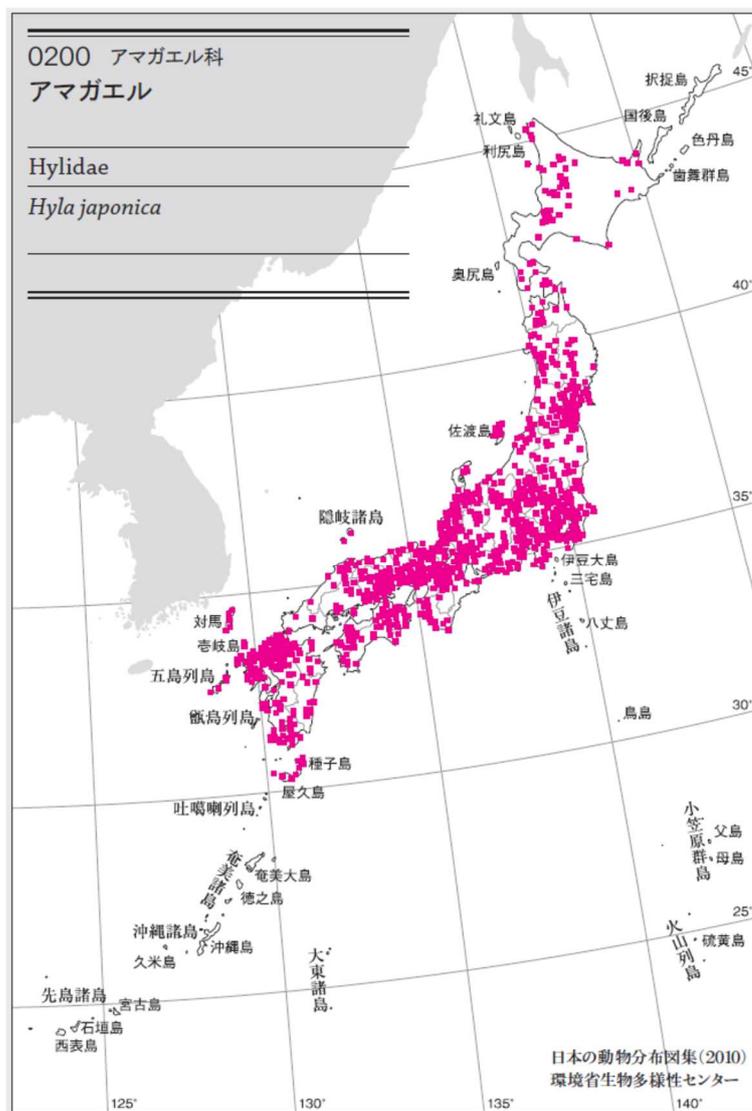
【カテゴリー1】

身近ないきもの（以前は普通に見られたが、近年減少傾向にあるとみられるいきもの）

【ニホンアマガエル】



日本全国の平地から低山に分布しており、春から夏のはじめにかけては水田や池で過しています。夏になると、おもに水田や池のまわりの森や草地で生活します。都市部では、水田の減少から数が減っているとみられています。



ニホンアマガエルの分布状況
(環境省「日本の動物分布図集(2010)」より)

【カテゴリー1】

身近ないきもの（以前は普通に見られたが、近年減少傾向にあるとみられるいきもの）

【オオカマキリ】



日本に生息するカマキリのなかでも大型で、南西諸島を除き、ほぼ日本全国に分布しています。

実証データはありませんが、最近見かけることが少なくなったとの声が聞かれます。



オオカマキリの分布図は未作成

【カテゴリー2】

北上するいきもの（もともとの分布域から北に分布を広げているいきもの）

【クマゼミ】



平地の林や公園などの木で、午前中を中心にシャアシャア、ワシワシワシと大きな声でさかんに鳴きます。クマゼミは西南日本を中心に生息しており、関東南部が生息域の北限と言われていましたが、近年は分布が北に拡大しています。幼虫が、樹木に付着した土に紛れて運ばれることで、本来の分布地から遠く離れた場所で確認されることがあります。



クマゼミの分布状況
(環境省「日本の動物分布図集(2010)」より)

【カテゴリー2】

北上するいきもの（もともとの分布域から北に分布を広げているいきもの）

【ツマグロヒョウモン】



主に西日本に分布していますが、近年関東地方や東北地方などでもみられます。メスの前ばねの先にある黒い部分が特徴で、名前の由来にもなっています。幼虫はスミレ科の植物を食べており、市街地では植えられたパンジーも食べています。



ツマグロヒョウモンの分布状況
(環境省「日本の動物分布図集 (2010)」より)

【カテゴリー3】

外来生物（分布を拡大している外来生物）

【ミシシippアカミミガメ】



米国南西部原産で、1950年代後半からペットとして輸入・飼育されました。飼育個体が野外に放たれることなどにより、北海道から沖縄まで全都道府県に分布しており、定着地域では在来のカメ類や水生植物、魚類、両生類、甲殻類等に影響を及ぼしていると考えられています。

環境省では、「生態系被害防止外来種リスト」において緊急対策外来種に位置づけて、平成27年7月より、野外への大量の遺棄の防止、野外における防除等を総合的に実施していくためのプロジェクト「アカミミガメ対策推進プロジェクト」を進めています。

※ 「アカミミガメ対策推進プロジェクト」については以下をご参照ください。

<http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/akamimi.html>

※ ミシシippアカミミガメの国内での分布については以下をご参照ください。

「国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース」

<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/30050.html>

【オオハンゴンソウ】



北アメリカ原産で明治中期に観賞用に導入されました。1,955年に野外でも生育が確認され、現在では全国に分布を広げています。

北海道、福島県、長野県、岐阜県で大群落がみられます。なかでも、日光国立公園の戦場ヶ原や十和田八幡平国立公園、北海道登別市のキウシト湿原では、一面に繁茂し在来種に深刻な影響を与えており、防除が行われています。

※ オオハンゴンソウの国内での分布については以下をご参照ください。

「国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース」

<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80580.html>